

1. 活動状況

団体名	特定非営利活動法人 イッシュヨ移住オホーツク
対象事業	歴史的資産の保全・再生・活用
事業名	古い建築物の所有者に保全・活用の意識啓発を促す資料作成
事業目的	オホーツクへの移住を推進、支援する事を目的に、環境を保全し、観光を促進し、景観を改善する事で地域を活性化し、経済を発展させる事を目的
実施期間	平成 22 年 3 月 6 日 (土)
実施活動内容	<p>「古い建物を地域資源として活用するという提案書」を以下の内容で作成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東オホーツク地域の幹線道路沿道に存在する不使用家屋数の調査及び景観測定結果の抽出と分析作業 ・ 大空町東藻琴の農業古民家にて、冬季宿泊体験を通じた観光活用実験調査結果の抽出と分析作業 ・ 東オホーツク地域にて古い建物の所有者に対する「景観との関連」「建物の価値」「今後の計画」を軸とした意識調査を行った。 ・ 他地域における古い建物の活用事例 ・ 東オホーツクでの古い建物活用提案例 <p>「古い建物を地域資源として活用する提案書」を活用した意見交換会を以下の要領で実施</p> <p>場所：清里町コミット</p> <p>顧問：室蘭工業大学特任教授 黒澤 和隆氏</p> <p>参加：9名（行政、商工及び観光協会関係者、建設業者等）</p>
今後の課題 将来計画等	<p>資料は作成したものの啓発の為の会を開催しても、世間の関心も当事者も少なく個性的な内容のために、なかなか参加者を集められません。</p> <p>行政や地域組織と連携し、意見交換会、啓発勉強会を実施していきたいと考えています。</p> <p>今回参加いただいた網走開発建設部、東オホーツクシーニックバイウェイ関係者により、事業を拡大していただけるように提案しています。古い建物の多くは所有者個人の問題として扱われています。景観や文化保全への投資はすぐに利益が還元するものではありませんが、消失する事は地域にとっての大きな損害になってきます。古い建物を個人資産という枠組みを超えて、景観の改善、歴史文化の保全という観点から、公共財産であるという見方が必要になっています。</p> <p>企業や個人では投資も取り組みも難しい地域の問題は、行政の関わりが必要になります。古い建物の撤去、保存、改築に向けて政策が実現できれば、景観改善、歴史文化の保全により、治安、観光リピーター、地域住民の郷土愛と誇りが生まれます。</p> <p>建設業界にも、工事需要の増加による経済効果だけではなく、古い技術の継承、長寿命建築、省エネルギーへの意識啓発が付随する効果として期待されます。</p>

添付資料（別添）